

中部の

エネルギーを 築いた

人々

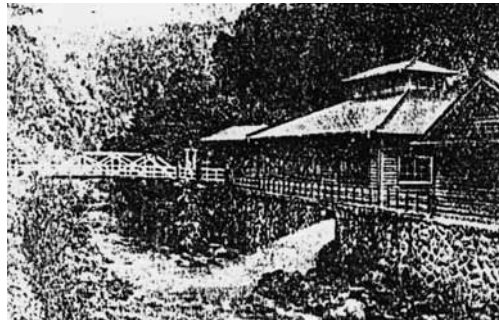
水力勃興期に中部地方で活躍した
電気技師 村松魯三郎

村松魯三郎は、日露戦後の水力発電の勃興期に、中部地方を中心に活躍した電気技師である。『大正人名辞典』は、「年少気鋭、縦横の手腕と卓越なる才能とを以て起ち、電気事業界に異彩を放ちつつある」と紹介している。村松は、明治13年4月、静岡県志太郡藤枝町に、旧駿河田中藩士村松秀和の次男として生まれた。9歳のとき父を亡くし、貰い子として苦労しながら小学校を出た。明治28年、東京に出て、自給自活で苦学をしつつ電気学を修得して同30年に逓信省に入り、松代松之助の助手として無線電信の研究に従事した。



村松魯三郎

その後逓信省を離れ、電気技術者として名古屋電気鉄道(那古野発電所)、豊橋電灯(牟呂発電所)、八幡水力電気(乙姫滝発電所)、小田原電気鉄道(湯本茶屋発電所)など草創期の発電所建設に携わった。明治34年には、奈良電灯の技術長に就任した。同社は、明治27年10月に開業していたが、火力発電で供給し、事業の不振が続いていた。35年8月には重役の刷新がはかられ、村松は電源の水力転換など経営改革に取り組み、明治38年11月、関西水力電気を設立して合併し、名張川筋の発電所調査、白砂川発電所(200kW)の建設など、再建の道筋をつけた。また、日露戦役には第二軍として従軍し、携帯電話機の活用によって各隊間の連絡を確保し、勝利に貢献したという。



関西水力電気 白砂川発電所

岡崎電灯主任技術者、東大見発電所に取り組む

明治39年に岡崎電灯の主任技術者に就任した。岡崎電灯は明治40年6月、合資会社から株式組織に代わり、大きく変貌をとげつつあった。足助町郊外、巴川支流の大見川に第2発電所として東大見発電所(500kW)を計画し、村松はその推進に携わった。東大見発電所はドイツ製機械を導入し、発電所建設を契機に、岡崎電灯は、岡崎町だけでなく東加茂郡、西加茂郡から額田郡の西尾町・一色



岡崎電灯 東大見発電所

町など西三河一帯に供給区域を拡大する。明治42年9月、新しい主任技術者として京都

帝大卒業の電気技師高石辨治が就任し、村松はその後岡崎電灯を辞している。

板取川電気で低落差発電に成功

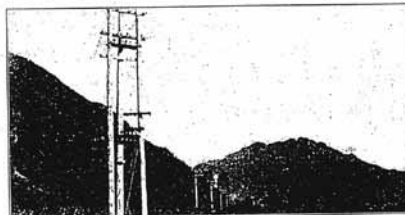
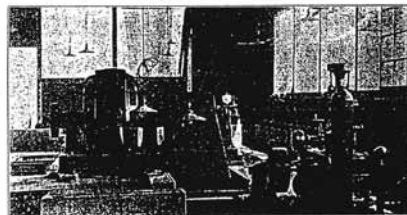
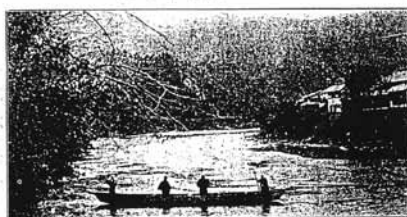
明治42年7月、岐阜県的美濃町、関町、川辺町などに電気を供給する板取川電気(社長：武藤助右衛門)の創設に関わった。同社役員には、次に述べる静岡瓦斯同様、岡崎電灯取締役の今井篤太郎(羽二重工場経営)が就任しており、同氏に請われて参加したのであろう。同社安毛発電所(300kW、昭和10年廃止)は長良川支流板取川筋に建設され、村松は工務課長・主任技術者として担当した。同発電所は、先輩諸学士が難しいとしていた「本邦未曾有得の最低落差(7.6m)たる水力電気工事」であったが、村松は「熱誠を以て工事に寝食を忘れて尽力せられ、以て比較的低廉なる工費を以て落成開業に至らしめ」、関係者から深く感謝されたという。



板取川電気 安毛発電所跡



社會式株氣電川取板
(限五廿發務)

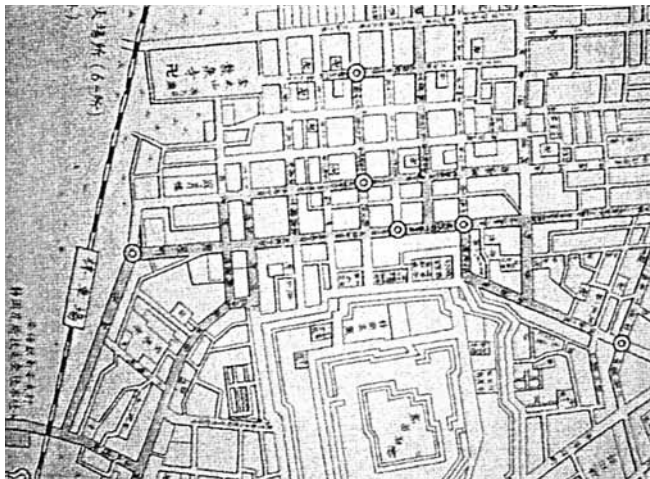


『電気之友』板取川電気特集(明治43年12月号)

静岡瓦斯支配人として事業立ち上げに貢献

明治43年には静岡瓦斯(明治43年4月創立、資本50万円)支配人へと転じ、事業が順調なスタートを切る上で貢献した。静岡瓦斯には地元静岡の関係者のほか、常務取締役となる今井篤太郎、第2代社長となる千賀千太郎など岡崎電灯の関係者も関わっていた。事業の

開始に当たって、村松は岡崎電灯から招聘されたのであろう。静岡瓦斯は、明治43年の設立に際し、静岡電灯の買収を計画し、仮契約も締結したが、これも岡崎電灯の経験が背景にあったものと思われる。



静岡市内ガス灯(○)配置図(明治44年)

出典は左右写真いずれも『静岡ガス100年史』



静岡瓦斯起業

『静岡民友新聞』明治39年10月31日

その他小規模電気事業への関わり

村松は、このほかにも多くの小規模水力事業にも関わっている。明治40年3月に設立された天竜電力(二俣町、現天竜市に電気を供給)の創設に関わり、天竜川支流に天然の岩石を巧みに利用した堰堤を持つ川瀬発電所(150kW)の建設を進めた。また、御前崎町一帯に電気を供給した南遠電気(明治43年2月設立)、遠州森町に供給した周智電灯(明治43年2月設立)など、彼の地元、静岡方面での電気事業に関わった。三重県一志郡の大勢水力電気(大正7年5月設立、八知発電所建設)の監査役にも就任している。

明治45年にはシーメンス・シュッケルト社に入社し、主に外交方面で活躍したといわれ、また大正4年7月に村松組を創設したとされるが、以後の経歴は不明である。

(浅野 伸一)



天然の岩石を利用した川瀬発電所堰堤跡



岩を穿って作られた川瀬発電所取水口